

## 大飯発電所1号機の定期検査状況について (燃料取替用水タンクからの水のにじみについて)

このことについて、関西電力株式会社から下記のとおり連絡を受けた。

### 記

大飯発電所1号機(加圧水型軽水炉; 定格電気出力117.5万kW)は、平成16年6月4日から第19回定期検査を行っているが、6月10日に発生した燃料取替水タンクの変形事象を踏まえ、当該タンクの変形範囲を取替え、7月12日18時05分からキャビティ水により水張りを開始し、7月14日2時40分に満水(タンク水位: 100%)とした。

その後、協力会社社員が溶接事業者検査のうち耐圧検査準備のためタンク外観等の点検を行っていたところ、7月14日6時頃、当該タンク戻りライン配管サポートあて板を当該タンク胴部に溶接している付近(再利用部)から、にじみ程度の漏れがあることを発見した。

このため、タンク水位を当該部高さ(タンク水位: 約92%)以下になるまで水抜きを行い、詳細点検を実施する。

なお、この事象による環境への影響はない。

### (これまでの経緯)

大飯発電所1号機(加圧水型軽水炉; 定格電気出力117.5万kW)は、平成16年6月4日から第19回定期検査を実施中であるが、6月10日、燃料取出作業のため、原子炉キャビティの水張り作業を行ったところ、1号機燃料取替用水タンクの上部付近の変形を発見。タンク外観の詳細点検の結果、タンクは高さ約9m～約13.5mの範囲でほぼ全周にわたりタンク内側に変形しており、一部で変形に伴う損傷(開口)も確認された。

原因調査の結果、タンク水位の上昇を伴うキャビティ水抜き作業時にのみ、仮設ダクトホースの取付けおよび目張りを行うべきところ、キャビティ水張り作業時にも同様の取付などが行われていた。また、今回の作業中にダクトホースが閉塞したことにより、タンクへの空気の流れが悪くなり、タンク水位低下に伴いタンク内の圧力が低下したことから、外の圧力(大気圧)に耐えられず変形したものと推定された。

対策として、キャビティ水張り作業時は、ダクトホース等を取付けないことを工事仕様書等に明確に記載するとともに、当該タンクの変形した範囲を、同仕様の胴板に取替えることとした。

\*1 原子炉キャビティ: 原子炉容器からの燃料装荷・取出時の燃料取扱いをほう酸水の中で行うためのプール

\*2 燃料取替用水タンク(屋外タンク): 燃料の取出し・装荷時の水漏れおよび原子炉冷却材喪失事故時の炉心・格納容器内への注入・冷却用の水源。

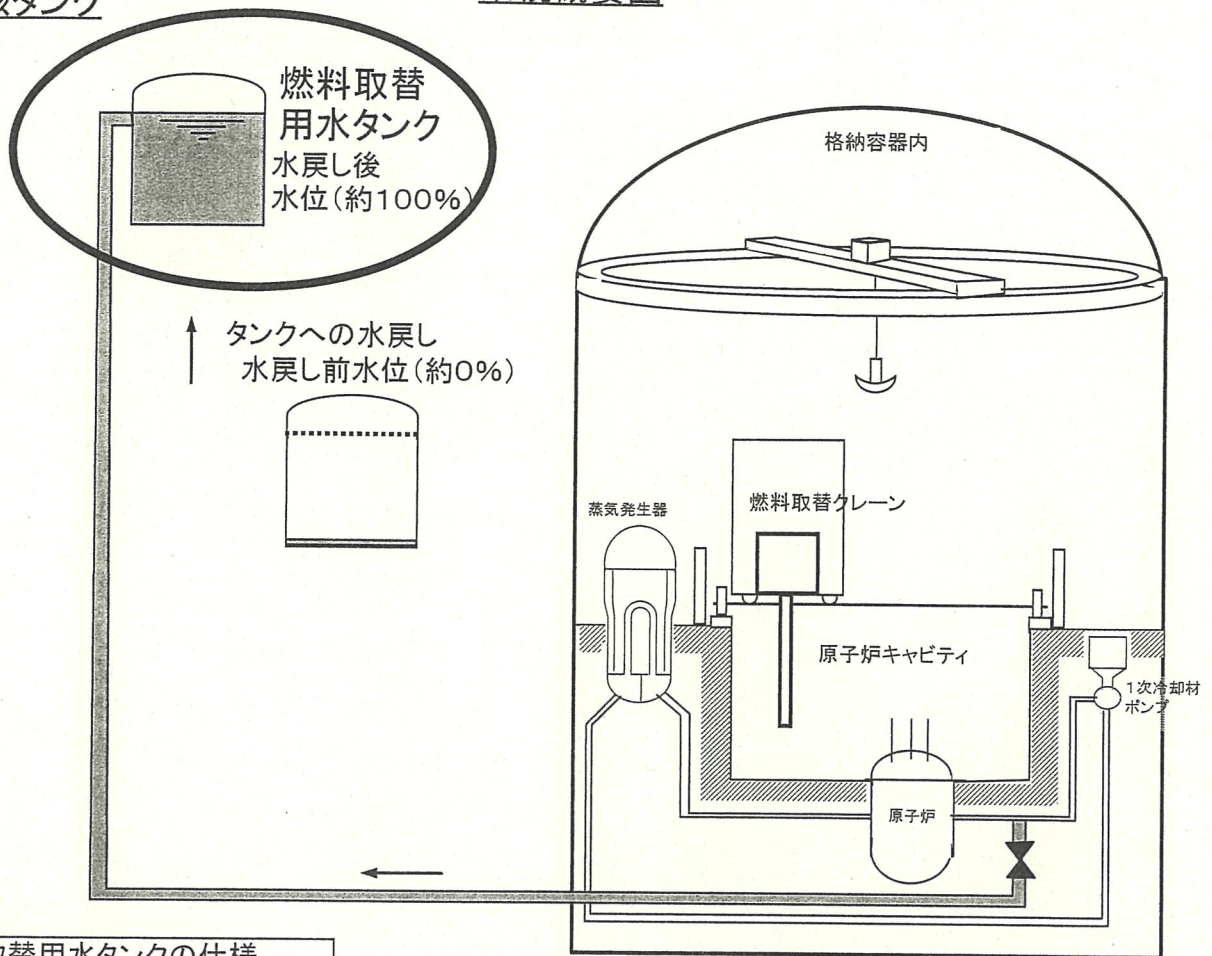
(6月10日、23日 記者発表済)

|                                         |
|-----------------------------------------|
| 問い合わせ先(担当: 山本)<br>内線2353・直通0776(20)0314 |
|-----------------------------------------|

# 燃料取替用水タンクからの水のにじみについて

## 系統概要図

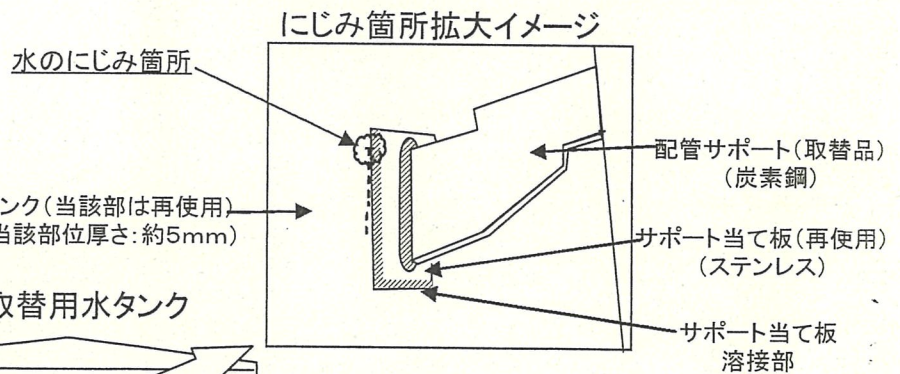
### 当該タンク



### 燃料取替用水タンクの仕様

容量: 1,400m<sup>3</sup>  
高さ: 約17m  
直径: 約11m  
板厚: 4~13mm  
材質: ステンレス

### 発生箇所



### 燃料取替用水タンク

### 水のにじみ箇所

ECCSテストラインの戻り配管

